

立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇全教一斉ひのきしんデー◇

4月29日(土・祝) 日々お借りしている身体に感謝して
家族でひのきしんに汗を流しましょう!!
各支部の集合場所などの詳細は下記QRコードを
読み取って頂きご確認ください。



大教会のHPがご覧になれます!
月報には掲載されない写真もいっぱいです!
ぜひ一度ご覧下さい♪



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会三日月次祭

大教会三日月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
二月は初席者二名の御守護
を頂戴しました。一步一步で
ありますが、本年の心定め達
成に向け、それぞれの真実を
お受け取り頂きますこと心よ
り御礼申し上げます。私共、

教会長をはじめようばく一同
は、年祭活動のこの大きな旬
に、定めた一人一人の人がお
ぢばへお引き寄せ頂き、それ
ぞれが真にたすかつていく姿
を思い浮かべ今月も心を込め
真剣におぢばがえりの声かけ
に努めさせて頂く所存でござ
います。」と奏上した。
その後座りづとめ・十二下り
のをどりが勤められ、参拝
者は共に勇んでみかぐらうた
を唱和した。

神殿講話



神殿講話抜粋

三幣敦志 准役員

◆年祭の意義◆
「諭達第四号」で真柱様は
「明治二十年陰暦正月二十六
日、子供の成人を急ぎ込まれ、
定命を縮めて現身をかくされ
たが、今も存命のまま元のや
しきに留まり、世界たすけの
先頭に立って働き下され、

私たちをお導き下されている。
この教祖の親心にお応えすべ
く、ようばく一人ひとりが教
祖の道具衆としての自覚を高
め、仕切って成人の歩みを進
めることが、教祖年祭を勤め
る意義である。」と仰せられ
ました。教祖の親心にお応え
すべく、ひながたを辿り教祖
のご守護をより身近に温かく
感じ、成人の歩みを進めるた
めに、「年祭の元一日」を振り
返って、年祭の意義を心に
治めていきたいと存じます。
「年祭の元一日」は、明治

20年陰暦正月26日、教祖が現
身をおかくしなされたその日
が元一日です。真柱様は、130
年祭当日の神殿講話で「私は、
教祖の年祭という時、例年の
春の大祭とは違った、ひとき
わ身の引き締まるようなもの
を覚えずにはいられないので
あります。今日の私たちは、
教祖は現身をかくされて後も、
今も存命の理をもつてお導き
下されていると聞かせてもら
い、普通の人間の年祭とは意
味が違うと分かっております。
しかし、その時お側にあった
人々の胸中を思いますと、神
と敬い、真実の親として長年
の間親しんできた教祖が身を
かくされたことの悲しみ、嘆
き、寂しさは、想像を絶する
ものがあつたに違いないと思
うのであります。」と述べら
れています。そこで、「稿本
天理教教祖伝」第10章「扉ひ
らいて」を拝読いたしますと、
この日に至る49日間に及ぶお
やしきの動静が記されていま
す。
「事情なければ心が定まら
ん。」(明治20・1・13)との
おさしづのとおり、明治20年
1月1日の夕方、教祖がお風

呂場からお出ましの時ふとよろめかれてより、4日には教祖のお身上がただならぬご様子となりました。本席様におさしづを伺うと「さあ、もう十分詰み切った。これまでも何の事も聞かせておいたが、すつきり分からん。何程言うても分かる者は無い。これが残念。(中略) さあ、もうこたへて了うか。」とお言葉があり、教祖は息をされなくなり、お身上が急に冷たくなられました。一同は驚き、翌日より、連日お詫びづとめをつとめられていきます。しかし、官憲の取り締まりが厳しい時代でもありましたので、門戸を閉じ、夜中、ひそかにつとめていました。そして、お側の人々は、夜通し談じ合いを重ね、神意を伺っては練り合い、教祖にお元氣になつて頂きたい一心で思召に近づけるよう心を定めていきます。教祖のご容態が一進一退を繰り返している中、1月13日午前3時頃、いよいよ初代真柱様が教祖の枕辺に進みお伺いすることとなりました。この時、初代真柱様は「法律がある故、つとめ

致すにもむつかしゅう御座ります。」「また、「親神の仰せと国の掟と、両方の道の立つように御指図願います。」などと、苦しい胸の内をさらけ出してお伺いされました。この時のお言葉に「さあ、月日がありてこの世界あり、世界ありてそれあり、それありて身の内あり、身の内ありて律あり、律ありても心定めが第一やで。(明治20・1・13)」と、嘯んで含めるように、やさしく教えられました。真柱様は、この問答を、先の年祭当日のお話の中で、「この神と人、をやと子の息詰まる遣り取りの中、1月13日の未明、初代真柱様が教祖の枕辺に進んでのお伺いと、それに対する教祖の厳しくも懇ろなお諭しは、強く私たちの胸に迫るので、また、このおさしづについて、「いざ」という時には命を捨て、即ち親神様の思召に沿いきる精神をお仕込み下された、いわばひながた50年を締め括るお仕込みであります。このお諭しは、その当時、その場の

人々へのお仕込みであるだけでなく、その後も様々な形で出会うであろう困難な局面での、神一条と人間思案の葛藤に際しての指針となるものがあります。」とご教示下さいました。

教祖伝に話を戻しますと、その後迎えた1月26日、お身上中の教祖をも拘引しかねない状況で心定まらない中、思召を伺い、教祖のお身上がよいよ迫ってきたので、命捨ててもとの覚悟で心定まり、おつとめをつとめました。不思議と警官は来ず、無事につとめを終え、意気揚々と引き上げてきた人々に待っていた知らせは、教祖が現身をかくされた現実でした。陽気な鳴り物を満足げに聞いておられた教祖は、丁度「だいくのにもそろいきた」という12下りの最後のお歌の終わるころ、眠るがごとく現身をおかくしになりました。時に、御年90歳。人々は、悲嘆にくれ、茫然自失します。しかし、これではならじと氣を取り直し、おさしづを伺うと、

◆ 実践 ◆ 私、この140年祭が会長として初めての年祭となります。そして、教会をお預かりして7年目を迎えさせて頂いています。先の130年祭活動を振り返りますと、年祭活動1年目の平成25年10月に妻と結婚させて頂きました。そして、その年の12月始めより札幌市南区藤野で一軒家をお借りして、夫婦で単独布教を始めました。すぐに当時の6代邦廣大教会長様からお話を頂き、「まず裸になりなさい。そして3ヶ月は布教1本で通つてみなさい。必ず御守護頂けるから。3年後が楽しみだよ。」といったお話でした。夫婦で相談し、皆様から頂いた結婚祝いを生活資金にと思つて残しておいたものを、御供させて頂きました。それから、2ヶ月は全くにをいがかからず、真冬の寒さに震えながら、夫婦抱き合つて夜を越し、心折れそうな日々を支え合つて、毎日毎日歩き続けました。

3ヶ月目のある日、今日もにをいがかからなかつたなあと、2人で肩を落としながら、真つ暗な坂道を歩いていると、

目の前に杖を突いたおじさんがいました。思い切つて声をかけると、お話を聞いてくれて、おさしづの申し出を受けてくれて無我夢中で、お取り次ぎさせて頂きました。本当に教祖のお供をさせて頂いて一番有り難い瞬間でした。それから、通い先を次々とご守護頂き、年祭活動仕上げの年の別席団参には、坂道で出会つた方を含め4名の方をおさしづへ、教祖のもとへお連れすることができました。そして、130年祭の年、邦廣会長様からお話を聞いてより2年半、平成28年6月、勿体なくも教会長のお許しを戴き、千歳にて教会をお預かりするという有り難いご守護を頂きました。まったくもつて、教祖のご守護の賜物でございます。

それから7年。布教師の志を忘れず、教会内容充実に向け勇んで歩んでおりますが、私共の教会には、ようぼくが1人もいません。大きなご守護を頂きながらも、丹精の至らなさに反省するばかりです。私たち夫婦も、届かぬながらも、ひながたを心の頼りとして懸命に通じ、末代へと続く

道へ、一歩一歩夫婦力を合わせて、ひながたを目標とした御教えの実践を積み重ねてまいりたいと思ひます。

先の春季大祭後の神殿講話で、表統領中田善亮先生は「私たちの真実のたすけ一条の実働、心を勇ませるの躍動の句です。『勇んでかかれれば十分働く』と仰せ下されるのですから、逡巡せずつとめさせて頂きましょう。自分自身で氣持を勇ませられるように、心の努力を重ねましょう。今の自分にできる精いっぱい心を定めて、お互いに励まし合い力を合わせて踏ん張つてつとめ切らせて頂きましょう」と述べられました。

おふでさきに
 やまさかやいばらぐろふも
 がけみちも つるぎのなかも
 とふりぬけたら (一一四七)
 まだみへるひのなかもあり
 ふちなかも それをこしたら
 ほそいみちあり (一一三八)
 ほそみちをだんくこせば
 をふみちや これがたしかな
 ほんみちである (一一四九)
 どんな困難な道であろうと
 も、教祖のひながたを忘れず、
 「成程という日」を目指して、

大いに苦勞して、三年千日を つとめきる覚悟をお互いに心に定め、ご恩報じの道に力を合わせ、励まし合つて喜び勇んで通らせて頂きましょう。

ただ今の、大教会活動方針「教祖のひながたを目標に全教会心定め達成」を活動の芯として、「全教の心を一つにした」との真柱様のお言葉の実現に向け、網走大教会一丸となつて、心定め達成に向け、ご存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂けるようつとめ切らせて頂きま

◆ 修養科事前研修会始まる ◆ とば」が少しですが、私の心に残っています。また、大教会の皆さんのあたたかい心遣いを深く感じさせて頂きました。

何かをさせて頂くこともとても大切ですが、自分の中にある、まだ見ぬ種を良い種に替えることに気付くことの大切さを思わせて頂きました。3日間本当に有難うございました。

▼ 誠綱 佐藤奈々 (修養科4月より志願中) 受講前は、天理教のことは、かいつまんだくらいで、用語も今いち理解していませんでした。受講してみても、本当に先生方の講義が楽しく分かりやすく、自分の体験談を取り入れたお話だったので、あっという間でした。

まだ、しっかりと自分が話せるくらいにはなっていないが、「神様をより身近に感じられたこと」「より自分の生きていられることの感謝の気持ちのお礼」を気付かせて頂きました。小笠原敏子さんのねりあいのお話も参考になりました。このような企画をして頂き、お菓子や飲み物、三食の食事やたくさん親切にして頂き、有難うございました。

立教186年人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教人
69名	44名	34名	21名
成 果 (3月末現在)			
6名	3名	0名	1名



【受講者の感想】
 ▼ 誠綱 伊藤のぞみ (修養科4月より志願中) 改めて、素晴らしい可能性に満ちている日々があると気付きました。心通というこ

修養科事前研修会始まる



「春の学生おぢばがえり」が3月28日、本部中庭で行われた。式典では真柱様のお言葉、表統領・中田善亮先生が代読下された。

午後からは、直属アワーが3年ぶりに網走詰所で行われ、大教会長のお話を聞かせて頂いた後、昼食にバーベキューを頂き解散した。

▼参加者 学生9名
育成者3名

春の学生おぢばがえり



3月19日13時より、本部巡教を受けて、直轄信者に対して全教会一斉巡教を行った。参拝場に集合し、参拝をしてから大教会長が諭達の内容をわかりやすく話をされ、皆で御礼づとめをした。その後、話の内容などについての練り合いをして解散した。

▼参加者18名

直轄信者全教会一斉巡教



「諭達第四号」のご発布を受け、全教会一斉巡教が2月より開始された。網走大教会の部内巡教も現在、2月8カ所、3月17ヶ所、4月8カ所(予定)となっております。

3月19日、實東分教会(東京都)では、世話人・桐谷厚平の巡教を受け、関東ようき会も集合し、年祭活動をどう進めていくかなどを練り合った。

全教会一斉巡教

◎出直

▼釧厚分教会ようばく松崎ヤス様は3月22日出直された。享年97歳。葬儀は3月25日みたまうつしが千葉県茂原市の自宅にて、翌26日告別式がライフケア茂原会堂にて、在原道彌・釧厚分教会長齋主のもと執行された。

◎年祭

▼直轄所属、大箭一男の霊様の50日祭が3月4日、札幌市のやわらぎ斎場センターア28にて大教会長祭主のもと執行された。

▼東藻琴分教会五代会長夫人・小針すみ子の霊様の50日祭・合祀祭が3月6日、東藻琴分教会にて世話人・瀬川定自・祭主のもと執行された。

▼直轄所属・小川道治の霊様の5年祭が3月30日、網走市の自宅にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

▼直轄所属・徳野邦子の霊様の5年祭が3月31日、大教会にて大教会長夫人祭主のもと執行された。

▼旭網分教会所属・安見光英の霊様の10年祭が3月16日、幕別町の自宅にて、栗林徳正・旭網分教会長祭主のもと執行

動 静

▼誠 綱 小笠原敏子 (修養科志願予定)

主人の病気は、主人の心からと思っておりましたが、私の責任だと気が付きました。もっとももっと勢いをつけて、修養科生を出したいと思いましたが、

仕事も、100パーセントおたすけの心と「人たすけて我身たすかる」という、幸せになる道を身につけさせたいと思いました。

▼誠 綱 細川 厚 (修養科志願予定)

今まで、言葉の意味が分からなかったことが分かったことで、つながりが分かりました。明るく、楽しく分かりやすく教えて頂き、とても良い

▼誠 綱 宮下和子 (修養科4月より志願中)

心のエネルギーが高くなってきた気がします。今回は2回目の修養科に行かせて頂くので、たくさんのお付き添いを得て、魂の入れ替えが少しでもできたらいとおもいました。たんのうの心とひのきしんを喜んでさせて頂きたいと決めました。ようばくとして求めず、与えられる心でいたいです。2泊3日の研修会も楽しく、あつという間に過ぎたので、修養科もあつという間だと思えます。とても楽しみでワクワクしています。

▼誠 綱 小笠原敏子 (修養科志願予定)

主人の病気は、主人の心からと思っておりましたが、私の責任だと気が付きました。もっとももっと勢いをつけて、修養科生を出したいと思いましたが、



▼女満別 福田綾子 (修養科未定)

研修会で何を学ぶのか、難しいことなのか、自分でちゃんと理解できるのか、不安でした。しかし、受講してみても楽しく、分かりやすく、いろいろなお話を聞かせて頂き、この修養科事前研修会を受けて良かったと思います。

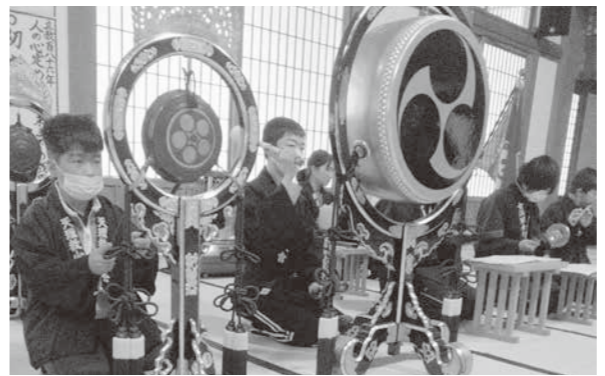
最初は私が受講させて頂きましたが、次は、主人に受けてもらって、夫婦仲良く、息子たち、身内の方々にたすかしてもらって、たくさんの方々に天理教を信仰していただけたら、なんて、思いました。一緒に付き添いで来てくれた教会の奥様、ありがとうございました。

▼女満別 三幣美代子 (修養科未定)

今回は、付き添いで受講させて頂きました。講義の内容は、非常に分かりやすく、初めての方でも、お誘いしやすいなあと感じました。

スタッフの先生方始め、宿泊、受け入れの準備など、心より感謝致します。

始めは、3日間という日程に多少不安もありましたが、大教会でこういう講習会をしていただけているのは、教会から近いこともあり、お誘いしやすく、ありがたいです。今後もお勧めしていきたいと思えます。



天理教少年会 網走団総会

3月19日、網走大教会にて天理教少年会網走団総会が開催された。

祭儀式では新川来暉くん(網新)が祭主をつとめ、その後、おつとめとよろづよ八首を参加者で真剣につとめさせて頂いた。

総会は少年会長様からの御告辞、大教会長のお話を聞かせて頂き、その後、少年会員を修了する子供に記念品が贈られた。

▼参加者 少年会員30名
育成会員9名



された。

3月人の「守護

○初席者 堀川 玲奈 (3名)

直轄 永井 絵里子

誠央 安田 千晴

○中席者 齋藤 明日香 (3名)

徳道 木沢 巴菜

誠綱 安田 千晴

○おさづけの理拝戴者(2名)

東網 新井 琴音

○修養科志願者 (3名)

誠綱 伊藤 のぞみ

○教人登録者 (1名)

誠綱 宮下 和子

○別席傍聴願 (2名)

○おまもり下附願 (3名)

育英会寄付者

大筋朋彦様 (父50日祭)

新川功太様 (天理教専修科入学)

新川来暉様 (天理高校II部入学)

大教会3月の動き

1日 役員会会議

3日 みそか会、直轄世話人会

4日 会長、大筋一男の霊様50日祭祭主つとめる。お話し会

5日 縦の伝道日

9日 網走支部例会会場

10日 役員会会議

11日 婦人会例会

12日 月次祭。役員会会議

13日 網走おたすけ委員会

16日 春季霊祭。修養科事前研修会(15日まで)

17日 会長、札幌方面直轄

19日 支那婦人会例会会場

22日 少年会総会。直轄信

23日 者・全教会一斉巡教

25日 会長、おぢばがえり

26日 会長、本部神殿奉仕

27日 つとめる。詰所23会

27日 議長、本部災救隊会

27日 本部月次祭遙拝。会

27日 長、教区主事会出席

27日 結城和広役員、本部

27日 神殿奉仕つとめる。

27日 教区学生会団体詰所

27日 来所(28日まで)。

27日 TSV四日市詰所来

27日 所(31日まで)

27日 会長、本部春季霊祭

27日 参拝。かなめ会出席

春季霊祭

28日 学生会直属アワー (詰所)
30日 みそか会

春季霊祭は3月13日午前10時より、神殿の儀が行われ、てをどり終了後、祖霊殿の儀が執行された。

司会	指図方	祭主	胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちやんぼん	笛	地方	てをどり	前	後	
桐谷善広	結城和広	大教会長	栗山聖子	大山泰子	眞壁香織	三幣敦志	小松篤志	斎藤芳徳	大山雅人	藤山重善	瀨川定自	栗山徳正	山崎萬代	細木善信	結城和広	遠藤明広
賛	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者
遠藤浩二	清水信喜	三幣敦志	細木善信	栗林直美	藤山眞理	遠田眞明	増田裕一	遠藤浩二	清水信喜	在原道彌	眞壁正教	田中敏文	瀨川祐子	三幣有子	菅原明宏	小針繁

立教186(令和5)年人のご守護成果表 (3月末現在)

教会名	初席	中席	ようぼく		修卒	教人	婦参者	教会名	初席	中席	ようぼく		修卒	教人	婦参者
			当月	累計							当月	累計			
直轄	2			4			誠央	1						4	7
美幌				1			常道							1	1
女満				3			徳道	3						8	12
斜里				0			満安							0	0
釧厚				0			網安							0	0
武士				1			オホーツク							0	0
常呂			1	5			網徳							12	0
旭網				1			栗沢							2	0
御料				0			徳盛							0	1
東藻				0			網新							0	1
陽光				4			網新							5	5
呼人				2			網葉							0	0
誠陽		1		1			網陽							3	1
網栄				0			誠綱	1	1				1	9	11
實東				1			網次	1	1					4	6
東網			2	3			網昇	1						2	8
宗稚				1			勇走							1	5
							詰所							11	
初席	中席	ようぼく		修卒	教人	婦参者									
当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果
3	6	5	6	2	3			1	1	53	140				

3月 月次祭 3/12(日)

〈参拝者数 約100人〉

神殿講話	賛者	指図方	扨者	祭主	祭員	祭典	役割
三幣敦志	田中 遠藤 浩二	清水 三知 春雄	小松 篤志	新川 正人			
胡三味琴弓線	小すりがね	拍子木	ちやんぼん	てをどり	地方	座りづとめ	
山崎 眞代	丸山 のり子	栗林 善徳	細川 眞子	三幣 正徳	大教会長	座りづとめ	
三幣敦志	遠藤 浩二	清水 三知	小松 篤志	新川 正人	大教会長	座りづとめ	
細澤 美子	大澤 美子	菅原 明宏	遠藤 明広	結城 和広	遠藤 明広	前席	
瀨川 祐子	眞壁 正教	菅原 明宏	小針 繁	田中 敏文	眞壁 正教	後席	